

事 務 連 絡
令和 7 年 9 月 12 日

東京都フリースクール等支援事業補助金
交付申請事業者 各位

東京都子供政策連携室企画調整部
企画調整担当課長

東京都生活文化局私学部
事業調整担当課長

東京都フリースクール等支援事業の今後の展開について

日頃より東京都の子供政策にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

都は、学校生活になじめない子供が、自分らしくありのままで成長できるよう、子供目線に立った取組を行うフリースクール等の活動を支援するため、有識者の意見を踏まえ「東京都フリースクール等支援事業」を構築し、令和 6 年度から開始しました。

皆様により効果的な取組を行っていただけるようにするためには、現場実態を把握しながら本事業を不断にバージョンアップしていくことが必要不可欠と考えており、この度、初年度の実績等を踏まえ、外部有識者の協力のもと検証を実施しました。

つきましては、検証結果と今後の対応の方向性等をお知らせいたします。今年度お取り組みいただきたい内容も含まれておりますので、ご一読ください。

なお、遊園地やテーマパークでの体験活動につきましては、対応の方向性の趣旨を踏まえ、令和 7 年度申請分についても再検討をお願いできればと存じます。本通知次頁や「令和 8 年度以降の体験活動について」等もご参照いただき、御検討・ご協力をお願いします。

引き続きご理解いただけますようよろしくお願いいたします。

【送付資料】

- ・ 本通知
- ・ フリースクール等支援事業の今後の展開について ※一部本年度から再検討をお願いします。
- ・ 体験活動成果報告書 ※本年度から運用を開始します。

お問合せ先

☐ 東京都子供政策連携室企画調整部企画調整課企画調整担当 今村・西島

Tel : 03-5388-3812

☐ 東京都生活文化局私学部連携支援課事業推進担当 大川・湯田

Tel : 03-5388-3154

令和7年度に申請していただいた体験活動（遊園地・テーマパーク）を変更する際のスケジュール等

新規申請の事業者の皆様におかれましては、現在交付申請いただいた内容を審査しているところです。対応の方向性の趣旨を踏まえ、遊園地・テーマパークでの体験活動を申請されているフリースクール等の皆様は、体験活動先について再検討をお願いできればと存じます。手続については、以下のスケジュールでご対応をお願いいたします。

<申請内容の変更等スケジュール>

【計画変更の意向確認】

東京都フリースクール等支援事業事務局へ、メール・お電話等で以下の内容のご意向をご連絡ください。

- ・ 期限：令和7年9月19日（金）
- ・ 遊園地・テーマパークでの体験活動の計画変更の意向の有無
- ・ 交付申請している該当の体験活動名・体験活動先の遊園地・テーマパーク施設名

※意向確認のご連絡がない場合は、変更なしとして取り扱います。

【変更後申請書類の提出】

計画変更される場合は、補正依頼受取後、交付申請 LoGo フォームの申請内容を補正し、以下の関係書類をアップロードしてください。

- ・ 期限：令和7年9月30日（火）
- ・ 交付申請関係書類（子供の体験活動）
- ・ 変更後の体験活動に要する経費を確認できる書類（見積書・料金表等）

※今回の手続は、体験活動先の変更にかかる計画変更のみが対象です。その他の申請内容については、追加・変更等はできません。その他の申請内容の変更については、交付決定後にご相談ください。

※今回の手続で体験活動先を変更した場合でも、フリースクール等において、独自に遊園地・テーマパークで活動を実施することを妨げるものではありません。

ご連絡・資料再提出先

□東京都フリースクール等支援事業事務局

Tel：03-6633-3648 受付時間 12時～18時（日・祝日・年末年始を除く）

Mail：shien-fs-tokyo@pasona.co.jp

令和7年度より、体験活動の成果報告書の作成をお願いします

子供の体験活動費につきましては、実施計画書のほか、体験活動の成果・効果を明確化できるよう、成果報告書の作成をお願いいたします。様式等は東京都フリースクール等支援事業公式HP「交付決定済の皆様へ」に掲載いたしますので、ご確認ください。

【成果報告書 記入例】

東京都フリースクール等支援事業補助金 【子供の体験活動費 成果報告書】									
【記入上の注意】 ○体験活動を実施した後、 <u>2週間以内</u> に提出してください。		記入日	令和	7	年	○	月	○	日
		施設運営者	特定非営利活動法人フリースクール○○						
		支援対象施設	フリースクール○○						
		担当者	担当者名：	□□□□	電話番号：	080-0000-0000			
		連絡先	電子メール：	test@xxxx.com					
※複数の活動について交付決定を受けている場合は、活動ごとに成果報告書を作成してください。									
活動名	自然体験活動（○○山ハイキング）								
実施場所	○○山								
実施日時	令和7年○月○日								
参加人数	小学生	6	人	中学生	8	人	計	14	人
体験活動の 成果 （体験活動の結果、向上が見られた項目に○を付けてください）	○	社会性：約束通り参加できた。工程を理解して参加できた。集団での行動やいつもと違う状況でも行動できた。							
		基本的な生活習慣・安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある行動ができた。							
	○	健康・体力の向上：心身の健康に気を付け、進んで運動ができた。							
	○	責任感：自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動ができた。							
		創意工夫：自分でよく考え、課題意識をもって工夫と取り組みができた。							
	○	思いやり・協力：相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合うことができた。							
	○	生命尊重・自然愛護：自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動できた。							
		勤労・奉仕：手伝いや仕事を進んで行うことができた。							
		公正・公平：相手の立場に立って公正・公平に行動することができた。							
		公共心・公德心：約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと活動できた。							
	○	その他	・ガイドが説明する山の危険性などについて様々な質問が出て、子供同士で話し合い、何に気を付けるべきかを自分たちで考え、実践することができた。 ・図鑑の植物を実際に観察することで、理科学習への興味が引き出せた。						
参加した児童生徒の様子や感想	日常と異なる環境で、緊張感をもって周囲を観察したり、お友達同士で声を掛け合ったりする様子が見られた。年長者が年少者の歩行を進んでサポートする姿も見られた。 また、普段から植物への興味が強く図鑑をよく見ている児童は、現地で実際の自然に触れながらガイドの説明を聞いたことで、より植物に対する理解が深まり、興味関心が増した様子だった。 ※「楽しかった」といった感想ではなく、集団での行動ができた（遅刻しない、騒がない）、いつもの状況と違う場面でも行動できたなど、具体的に記載してください。								

【(参考) 実施計画書 記入例】

参考様式

東京都フリースクール等支援事業補助金 【子供の体験活動費 実施計画書】

記入例
(フリースクール等施設
外での専門家招へい)

記入日 令和 7 年 〇 月 〇 日

施設運営者 特定非営利活動法人フリースクール〇〇

支援対象施設 フリースクール〇〇

担当者 担当者名: 〇〇〇〇 電話番号: 080-0000-0000

連絡先 電子メール: test@xxxx.com

令和7年度東京都フリースクール等支援事業補助金(子供の体験活動費)について、事業の実施に伴い、下記のとおり実施計画書を提出します。

記

※複数の活動について交付決定を受けている場合は、活動ごとに本実施計画書

専門家招へいを伴わない場合、専門家への依頼内容は記入不要です。

活動名	自然体験活動(〇〇山ハイキング)		
目的	〇〇山の自然や植生について事前学習を行い、ハイキングで実物を観察し、〇〇山ガイドから現地では得られない知識や体験を吸収する。安全な登山について学び、危機管理意識を育てる。		
実施場所	〇〇山		
日時	令和7年〇月〇日		
活動内容・専門家への依頼内容	〇〇山でのハイキング。ガイドを依頼し、山中の安全性や自然についてのレクチャーを受けながら登山を目指す。 専門家: 〇〇山公式ガイド1人		
行程・利用交通機関	(8時) フリースクール集合、バスで〇〇山へ⇒(10時) 〇〇山到着⇒(12時) 山頂で休憩、昼食⇒(15時) 下山⇒(16時) フリースクールにて解散 利用交通機関: 借上げバス		
参加予定人数	小学生 7 人	中学生 8 人	計 15 人
参加職員数	4 人		

屋食代など、本補助金の対象とならない経費は記入不要で(を除く)

項目	支出内容	支払先	数量	単価(税抜)	所要金額(税抜)	控除額	補助率	申請額
交通費等	往復バス代	△△交通	1	300,000	300,000	100,000	1/2	100,000
傷害保険料等	レジャー保険	〇〇保険	15	1,000	15,000	0	1/2	7,500
					0	0	1/2	0
					0	0	1/2	0
					0	0	1/2	0
					0	0	1/2	0

他団体等からの補助金や、保護者からの徴収金額などが補助対象と同じ経費に充てられる場合は、控除額として記入してください。

経費(本活動の実施にかかるもののみ、専門家招へいにかかる経費)

項目	支出内容・専門家名	一人当たり経費・補助率1/2又は補助上限5000円のうち低い方	人数	回数	控除額	申請額
専門家招へい経費	〇〇山ガイド	5,000	1	1	0	5,000
専門家招へいを行わない体験活動の場合は、専門家招へいにかかる経費欄への入力不要です。						0
						0
						0
専門家招へい経費						0
専門家招へい経費						0

複数の体験活動で交付決定を受けた場合は、それぞれの体験活動の所要金額の合計が「子供の体験活動費」全体での交付決定額を超えないようご注意ください。

※ 必要に応じて、適宜行を追加してください。

申請額合計 112,500

フリースクール等支援事業の 今後の展開について

- ★ 令和6年度より本事業を開始し、皆様のご協力の下、**子供目線に立った取組**が**着実に**進められております。
- ★ 皆様がより**効果的な取組**を行えるようにするためには、**現場実態を把握**しながら本事業を**不断にバージョンアップ**していくことが必要不可欠と考えております。
- ★ そこで、事業開始から1年が経過し、初年度の実績等を踏まえ、**外部有識者の協力のもと検証を実施**しました。
- ★ **検証結果と、今後の対応の方向性等**についてお知らせいたします。

外部有識者からの主な意見



-事業全般-

- 率直に、**素晴らしい取組**が行われていると思う
- 本事業をきっかけに、子供一人ひとりについて「この子にとって今、あるいはこれから必要なものは何なのだろう」と皆で考えていかなければならない

-サポートプラン-

- サポートプランの作成が**子供や保護者、学校等とのコミュニケーションの機会**となっているのは**素晴らしい実践**
- より良いサポートプランを作成し**効果的に活用**できるよう**都の支援の更なる充実**が必要
- 保護者とのヒアリングの際は、どの**支援機関とつながっている子供なのか知ることは重要**
- 子供へのヒアリングの際は、**長期目標だけではなく**、「明日こんなことを頑張りたい」といった**短期目標を聴くと支援内容を考えやすい**
- 子供への支援の状況を**定期的に振り返る**ことが重要



外部有識者からの主な意見



-体験活動-

- 子供たちが、**自然の中での学び**などを経験できることは**非常に良い**
- **小中学校**での**活動内容とのバランス**や、**公費**での補助であることを念頭に**活動先や対象経費を設定**すべき
- 活動の目的だけでなく、**成果についての報告**も重要

-安全対策・資質向上-

- **スタッフ**が子供の安全確保や支援の質の向上のために、**資格取得や知識の習得**に取り組んでいることは非常に**意義がある**
- 着目すべき取組は**他のフリースクール等に共有**して、**運営の参考**にしてもらうべき
- **スタッフの資質向上**に向けては、**都が実施している専門家派遣や研修も補助**と**両輪**で活用してもらえるとより良い



フリースクール等からの主な意見



-事業全般-

- 本事業を**子供の成長**に役立てていきたい
- **スタッフ間**で**支援内容**を共有しながらさらに**充実した現場**を作りたい

-サポートプラン-

- **サポートプランの充実**を目指し、**作成して終わるのではなく**、**お子さんや両親と定期的に意見交換**しながら、**ブラッシュアップ**していきたい
- **作成・活用のポイント**についてもっと知りたい
- うまく作成できるのか、作ったものが正しいのか不安



-安全対策・資質向上-

- **他のフリースクール等の活動・取組事例**をもっと知りたい

検証結果を踏まえた今後の対応

支援全般

- 令和6年度の実績報告の内容から、皆様の**参考になりそうな取組例**をまとめ、**年内を目途に情報提供**します

サポートプラン

- 皆様が**より良いサポートプラン**を作成し活用できるよう以下の取組を実施します
 - ・子供への支援の質を高める**P D C Aサイクル**を回しやすくするため、**サポートプランの様式を見直し**を検討していきます
 - ・**手引きに作成のポイントや事例**を追加するなど、充実を図ります

体験活動

- 事業効果をより一層高めるため、補助対象について**以下のとおり見直します
 - ・**経費**：子供の**利用料**や電車代等の**交通費**はフリースクール等の利用者負担とし、**引率者に係る経費**を補助対象とします
 - ・**体験活動先**：**遊園地・テーマパーク**での体験活動は補助**対象外**とします
都外での体験活動は、**埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、茨城県に限定**します

※上記見直しについては**別紙もご確認ください**

- 体験活動の成果を明確化できるような「**成果報告書**」を新たに設定し、提出を依頼させていただきます ※**7年度から運用開始**します

安全対策・資質向上

- 安全対策やスタッフの資質向上に関して、他のフリースクール等の取組事例など**着目すべき取組**について、**年内を目途に情報提供**します

引き続き、都の取組に御理解・御協力のほどよろしくお願いします。

< 体験活動補助に対する都の基本的な考え >

- ① 公立学校での校外活動の内容やその経費の公費負担とのバランスを踏まえた対象経費を設定
- ② 運動場やホールでの活動など、学校施設では実施できるが、フリースクール等では実施が難しい活動（広いスペースを使つてのスポーツや発表会等）を支援
- ③ 博物館での鑑賞など、学校で一定の学習目的をもって実施される校外活動と同様の取組を支援

● 子供に係る経費から引率者に係る経費へ補助対象を変更

I 対象経費

- ・学校等の校外活動では、子供に係る経費は原則保護者が負担しているため、1人当たり利用料が示されている施設等は補助対象を変更します（基本的な考え①）
- ・なお、体育施設の借り上げなど施設当たりで利用料が決まっているものは、子供に係る経費についても補助対象とします（基本的な考え②）

● 「遊園地・テーマパーク」については補助対象外

II 活動施設

- ・公立学校での校外学習の目的や活動内容とのバランスの観点等から対象外とします（基本的な考え①②③）

● 活動先を東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・山梨県 茨城県内に限定

III 活動地域

- ・都内には様々な施設等があり、都内の施設から選択することで、基本的には活動目的を満たすことが可能と考えます（基本的な考え①）
- ・ただし、移動の利便性や子供の安全性を踏まえて活動場所を設定できるよう配慮が必要であるため、都外は上記5県に限定して補助対象とします

※都の補助対象経費の見直しであり、フリースクール等の皆様が独自で実施することを妨げるものではありません。
※令和8年度の補助事業実施については、令和8年度予算が認められた場合に限りです。